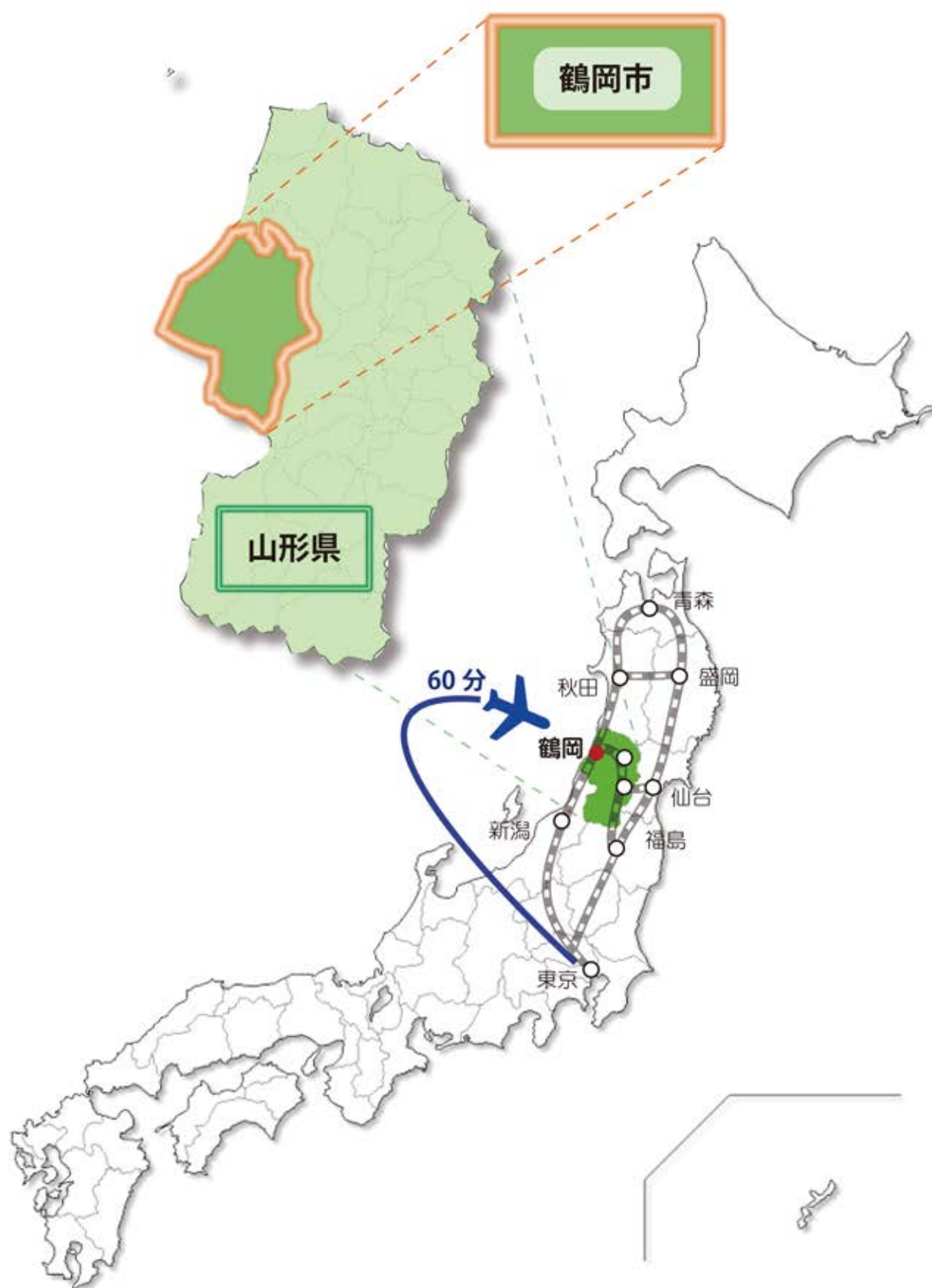


① 申請者	山形県 鶴岡市	② タイプ	地域型 / シリアル型 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D E	
③ タイトル				
サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ				
④ ストーリーの概要（200字程度）				
<p>山形県鶴岡市を中心とする庄内地域は、旧庄内藩士が刀を鋤に替えて開拓した、松ヶ岡開墾場の日本最大の蚕室群をきっかけに国内最北限の絹産地として発達し、今も養蚕から絹織物まで一貫工程が残る国内唯一の地です。</p> <p>鶴岡市では、松ヶ岡以外にも六十里越古道沿いの田麦俣集落に、四層構造で暮らし・養蚕などが一つの建物にまとまった多層民家が現存しています。さらに、国内ではここだけの精練工程が明治時代創業の工場で行われるなど、絹産業の歴史、文化が保存継承とともに、新たな絹の文化価値の創出にも取り組んでいます。鶴岡を訪れると、先人たちの努力の結晶である我が国近代化の原風景を街並み全体を通じて体感することができます。</p>				
<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>多層民家(田麦俣集落)</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>松ヶ岡開墾場</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>丙申堂</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>旧西田川郡役所</p> </div> </div>				
⑤ 担当者連絡先				
担当者氏名	山形県鶴岡市 企画部政策企画課 主査 高橋 修也（たかはし しゅうや）			
電 話	(0235) 25-2111 (内線525)	FAX	(0235) 25-2990	
E-mail	seisakukikaku@city.tsuruoka.yamagata.jp			
住 所	〒997-8601 山形県鶴岡市馬場町9番25号			





ストーリー

日本の近代化を産業面から牽引した絹産業。旧庄内藩士が刀を鋤に持ち替えたことが、鶴岡市を中心とする庄内地域が国内最北限の絹産地となったきっかけでした。この地域は、国内の絹産業が時代とともに衰退する中で、百数十年を経た今もなお、養蚕から絹織物の製品化まで一貫した工程が残る国内唯一の地です。



現存する国内最大級の蚕室群

“生きた業”の産業観光地 ～松ヶ岡開墾場～

明治維新の後、旧庄内藩士約 3,000 人（推定稼働延人員約 50 万人）が刀を鋤に替え、荒野を開拓し、日本最大の養蚕群を建設した松ヶ岡開墾場。ここは、庄内地域のみならず、日本全体の近代化にも貢献した“ジャパンシルク源流の地”です。松ヶ岡の開墾は、鶴岡市を中心に庄内地域で絹産業隆盛

開拓綱領が残る集落の拠点「本陣」



の大きな契機となり、産業面だけでなく、文化面にも大きな影響を与えました。



蚕室内での養蚕

明治時代初期に全国的で行われた土族授産の開墾地の多くが、普通の農山村集落となっていた中で、松ヶ岡開墾場は開墾当時の形態を継続し、今日までその施設、開墾地、経営方針を維持している稀有な例であり、日本の開拓史上きわめて貴重とされています。

松ヶ岡開墾場綱領にある「徳義を本として産業を興して国家に報じ、以て天下に模範たらしめし」の教えが守り続けられ、養蚕から製糸・製織・精練・捺染(なっせん)までの絹製品生産の一貫した工程を無形の文化遺産、すなわち“生きた業”として現在に継承する、国内で唯一の地域となっています。

多層民家の里 ～田麦俣～

鶴岡市田麦俣地区は、庄内地域と村山地域を結ぶ六十里越古道沿いの集落で、四層構造の多層民家の里として知られ、松ヶ岡の開墾により大きな影響を受けた地域の一つです。

明治時代の中頃、現金収入の源として養蚕が盛んになり、民家の二階以上が養蚕の場所として使用されるようになっていきました。しかし同地区は、山間部の傾斜地に位置し、住宅に適した土地が狭いうえに冬季は豪雪地帯として知られ、建物の新築や増築が困難であったため、毎日の暮らしと作業・養蚕のための部屋が一つの建物の中にまとめられて多層の形になったと言われています。

出羽三山の山間に広がる田麦俣集落





多層民家の建物

一層目は家族の居住用、二層目は住み込みの使用人たちの居住用と作業場、三層目が養蚕、そして四層目が物置として使用されました。その際、養蚕の作業効率を高めるため、屋根裏の改造が行われました。四方の屋根から採光と煙出しができるように「高はっぼう」と呼ばれる高窓が設けられましたが、これを屋根の側面から見た姿が「武者のかぶった兜」の姿に似ていることから、「兜造り」と呼ばれるようになり、建物は輪郭と緩やかな反り具合が美しい、風格のある意匠に変わっていきました。

近代化の原風景 ～商業・産業の近代化遺産群～

鶴岡の絹織物産業に対して、ベンチャー・キャピタルとして投資したのが、鶴岡城下で旧庄内藩の御用商人として発展し、後に鶴岡一の豪商となって産業の振興に力を注いだ風間家でした。風間家七代当主・幸右衛門は、



丙申堂表門

武家屋敷跡に住居と営業の拠点として

「丙申堂」を明

治 29 年（1896 年）丙申の年に建設しました。この丙申堂は、約 200 年前の武家門や、約 4 万個の石が置かれた「石置屋根」が特徴で、主屋を中心に 4 つの蔵や広大な板の間と大黒柱など、豪商の往時の繁栄ぶりをよく残しています。



丙申堂内の「通り」

市内にある致道博物館では、田麦俣地区にあった多層民家の一棟が移築展示され、煙出しなど現地での行事が行われており、同じ敷地内に移設された旧西田川郡役所では、建設された明治時代、桑園整備への資金貸付、養蚕指導などが重要な業務となっていました。

また、鶴岡市内に立地し絹織物の精練等を担う羽前絹練では、明治時代創業の工場と昭和 15 年建築の事務所が当時のままに活用されており、往時を偲ぶことができます。

このように、鶴岡市では、近代化の礎となった絹産業の歴史と文化を保存継承し、近代化の原風景が貴重な歴史遺産として残されているとともに、現在は、絹の新たな文化価値や創造性溢れる産業を創出するため、市民、地域、行政が連携して「鶴岡シルクタウン・プロジェクト」に取り組んでおり、鶴岡で生まれた絹糸の新たな活用として kibiso が、改めてジャパンシルクを世界に発信しています。



羽前絹練(株)精練作業風景

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の 状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所 在地 (※4)
①	松ヶ岡開墾場	国史跡	広大な開墾地の中心地であり、史跡地内には開墾本部として活用した「本陣」や瓦葺上州島村式の三階建の「大蚕室」5棟が現存する。	
②	松ヶ岡本陣	—	萱葺き、檜造平屋建の建物で松ヶ岡開墾事業の本陣となった。現在は地域の集会所としても利用され、開墾当初からの行事が行われている。	
③	松ヶ岡蚕室群	—	明治8年(1875)から10年(1877)の間に建てられた10棟のうち、5棟が創建当初の形容をそのままにとどめて現存しており、建物は群馬県の島村(現伊勢崎市)の構造方式を採用しているが、はるかにその規模が大きい建造物である。	
④	松ヶ岡蚕業稲荷神社	—	東京の旧酒井家藩邸に鎮座されていた神社を、明治8年(1875)に開墾地経塚丘上に遷し松ヶ岡神社とした後、明治28年(1895)に蚕業稲荷神社と改称し蚕業の守護神としたものである。	
⑤	松ヶ岡開墾士住宅	市有形	元々は浪士組織「新徴組」の住居として建てられ、後に松ヶ岡地域に移築し開墾士各戸の住宅とされた。石置屋根平屋建ての佇まいは、開墾の当時の様子をイメージさせる。	

⑥	旧遠藤家住宅	県指定	江戸時代後期の文化・文政年間（1804～30 年）に建てられ、当初は寄棟造であったが、明治に入って養蚕が盛んになると、屋根の改造が行われ、屋根側面は「高はっぼう（高破風）」という輪郭と、反りが美しい「兜造」に改造され、正面側にも採光と煙出しの窓が造られた。	
⑦	旧風間家住宅 <small>へいしんどう</small> 丙申堂	国重文	鶴岡の絹織物産業に対して支援を行った風間家 7 代目幸右衛門（織物会社の社長も務める）が住居と営業の拠点として建築したもの。広大な板の間の架構、約 4 万個ともいわれる石を敷き詰めた石置杉皮葺の屋根などの特徴を持ち、明治期の庄内地方を代表する近代和風建築。	
⑧	風間家旧宅 表門	国登録	上記風間家住宅の南側道路に面した表門。	
⑨	風間家旧宅 西側板塀	国登録	上記風間家住宅の西側道路に面した板塀。	
⑩	風間家旧別邸 <small>むりようこう えん</small> 釈迦堂	国登録	鶴岡の絹織物産業に対して支援を行った風間家により、明治 43 年（1910）に建築され、来賓の接待や関係者の集会の場として使われた。昭和 27 年（1952）からは風間家 9 代当主の私邸として現在に至っている。	
⑪	風間家旧別邸 土蔵	国登録	上記風間家旧別邸内にある土蔵。	
⑫	風間家旧別邸 表門	国登録	上記風間家旧別邸の南側にある両袖塀付の 1 間 1 戸薬医門形式の門。	
⑬	風間家旧別邸 中門	国登録	上記風間家旧別邸内にある両袖板塀付の腕木門。	

⑭	風間家旧別邸 北門	国登録	上記風間家旧別邸の北側にある簡素な腕木門。	
⑮	風間家旧別邸 板塀	国登録	上記風間家旧別邸西側は小屋根付きの板塀の構えを特徴付けている。	
⑯	旧渋谷家住宅	国重文	文政 5 年 (1822) に創建された多層民家であり、昭和 44 年 (1969) に致道博物館に移設。高層部では養蚕飼育の様子が伺える。	
⑰	旧西田川郡役所	国重文	郡役所として明治 14 年 (1881) に建てられたもので、当時桑植付けに対する貸付、繭糸品評会の開催や養蚕指導を行っていた。	
⑱	旧庄内藩主御隠殿 <small>ごいんでん</small>	未指定	文久 3 年 (1863) に 11 代藩主忠発が隠居所として建てた建物で、現在は、松ヶ岡開墾の指導者・菅実秀の命日に併せて「西郷隆盛・菅実秀両先生を偲ぶ会」がここで開催される。	
⑲	庄内藩校致道館	国史跡	全国の藩校の中では珍しく徂徠学を重んじ、教学・個性の伸長など庄内藩士の精神的支柱を形成した。ここで培われた教学の精神は、維新後に旧藩士が従事した開墾事業へ多大な影響を与えた。	
⑳	羽前絹練株式会社	-	明治 39 年 (1906) に創業。絹織物の精練工程を創業当時の釜を用い、現在も行われている。工場の敷地北東の一画には、武家屋敷や近代和風建築に共通する黒い板塀と門脇の松が一体となり昔の街並みの面影が感じられる純和風の事務所を備えている。	

構成文化財の写真一覧

1 松ヶ岡開墾場(国史跡)



2 松ヶ岡開墾場本陣



3 松ヶ岡開墾場蚕室群



4 蚕業稻荷神社



5 松ヶ岡開墾士住宅(市有形)



6 旧遠藤家住宅(県指定)



7 旧風間家住宅丙申堂(国重文)



8 風間家旧宅 表門(国登録)



9 風間家旧宅西側板塀(国登録)



10 風間家旧別邸 無量光苑釈迦堂
(国登録)



11 風間家旧別邸 土蔵(国登録)



12 風間家旧別邸 表門(国登録)



13 風間家旧別邸 中門(国登録)



14 風間家旧別邸 北門(国登録)



15 風間家旧別邸 板塀(国登録)



16 旧渋谷家住宅(国重文)



17 旧西田川郡役所(国重文)



18 旧庄内藩主御隠殿



19 庄内藩校致道館(国史跡)



20 羽前絹練株式会社



※9 及び 11~15 山形県教育委員会写真提供